大阪インターナショナルチャーチ：　　ブルース・アレン牧師
ヨハネの手紙　第一2章7－11節/NASB1995, ヨハネの手紙　第一5章1－4節/NASB1995,
マタイの福音書18章15－20/NABRE
New American Standard Bible (NASB1995) & New American Bible Revised (NABRE)

2024/05/05

説教題：信仰-祈りは勝利である

今朝、私は使徒ヨハネが1世紀のクリスチャンに宛てた書簡に焦点を当てたメッセージを用意しました。神について私たちが知っていることはすべて、私たちを神とイエスに近づけてくれるが、これは*実践的神学*の説教だと言えるでしょう。 これ以上に実践的あるいは実用的なことがあるだでしょうか？ しかし、使徒ヨハネがこの説教をしたように、信者なら誰でもできるように、あなたもすぐに、特に祈りの中で、この説教を適用し始めることができます。
(1ヨハネ 5章1-4節)：「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。4 なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。」

OICでよく使っている讃美歌（486番）には、（ヨハネの手紙第一章4節）に基づく「信仰は世に打ち勝つ勝利である」という歌詞があります。　私は、原典のギリシャ語新約聖書にあるような「打ち勝つ」よりも「征服する」という言葉の方が好きです。　意味的には同じであるが、 しかし、「打ち勝つ」という言葉には、私たち新生したクリスチャンが、わずかな差.....いわば1円差.....で世界に打ち勝ったとか、野球の「阪神タイガース」のピッチャーとして1点差で勝ったというような意味が含まれているような気がします！しかし、聖霊の息吹を受けたギリシャ語（*1ヨハネ5章*4節／ギリシャ語）では、神から生まれた者は皆、世に**打ち勝つ**（*nikao*／ギリシャ語）です。そして、これが**世に打ち勝つ**勝利の力、すなわち私たちの信仰なのです。
この勝利の態度は、（ローマ8章37節/NASBと原典ギリシャ語は同意している）：「しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」 ですから、私たちの信仰は、圧倒的な方法で、私たちを世に打ち勝たせるのです！
さて、私たちは「信仰」を正しく理解する必要があります。 私は、多くの悪魔の子たちが 「信仰を守れ！」と言って、さよならと言うのを聞いてきました。 機会があれば、私が彼らに「何

を、あるいは誰を信じるているのですか？」と尋ねます。 どういうわけか、この世は自分の信仰の「対象」が存在しなければならないということを無視した奇妙な考えを持っています。信仰の唯一の対象は、***勝利の力を生み出す勝利者イエスです。***

前回の**ローマ書 12 章 1-12 節**に関するメッセージで、私は私たちの謙虚な立場をしばしば私たちの小さな信仰、つまりからし種よりも小さな信仰であることを指摘しました。 しかし同時に、神の恵み深い救いの賜物には、信仰の大小にかかわらず、私たちが救いの信仰を続けることによって、私たちの小さな信仰を成長させてくださることも含まれていることを強調しました。そして、この同じメッセージから私は言いました： **クリスチャンの歩みにおいて時が経つにつれて、私たちはそれぞれ、（ローマ 12 章 3 節）の「量り」の詳細をよりよく知るようになります：**「神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。」

信仰について － イエスのからし種の比較：

主イエスは弟子たちに次のようにチャレンジし、励まされました。**（ マタイ 17 章 20 節）** ：「イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、**からし種**ほどの信仰があったら、この山に、『ここからあそこに移れ。』と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。」

もし、からし種ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここからあそこに移れ』と言うでしょう。このように、主は**弟子たち｛私たち｝に、山を動かすことのできる「からし種の信仰」を望むよう挑まれたのです。**

成長する信仰について ― 神は私たちの心の中で信仰を成長させるというイエスの約束：

イエスはまた、神がどのようにして私たちの信仰を成長させてくださるのかも語られました。私たちは自分の意志だけで信仰を成長させることはできませんが、*もっと信仰*を深めたいという心の願いを神に喜んで求めることはできます！ というのは、イエスは 言われている。 **（ルカ 13 章 20 - 21 節）：**「 20 またこう言われた。「神の国を何に比べましょう。21 パン種のようなものです。女がパン種をとって、三サトンの粉に混ぜたところ、全体がふくれました。」**パンは、パン種とともに、その中で「成長 」します。このように、神は私たちの信仰を成長させます。 神は、私たちが信仰を守り続ける間、しばしば私たちの理解を超えて成長させます。 神が私たちに与えてくださった信仰は、小麦粉（私たちの心の）に植えられたパン種なのです。**

ブルース牧師、私の信仰が世界を征服するのに十分なほど大きいと、どうすればわかるのですか？ あなたは新生したクリスチャンですか？もし答えが YES なら、それで十分です！ 救いの信仰は、神の約束によって、世界を征服するのに十分な大きさです。 それは保証されています！

(1 ヨハネ 5 章 4 節)：「なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った（nikao/Greek）のです。」
さて、私はヨハネが書いた 「世に打ち勝つ信仰 」の文脈を 「引き出す」、つまり釈義してみようと思います。 私が**義認**のテーマで説いてきたように、信者の救いの信仰は、*信じる*という神からの賜物です。 ***というのは、私たちは、永遠の赦しを買うためのイエスの十字架上の死に基づいて義とされます。***
(エペソ 2 章 8-9 節)：「8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行ないによるのではありません。だれも誇ることのないためです。」
クリスチャンがこの真実を信じるのは、神の権威ある言葉である聖書に記されているからです。また、尊敬される歴史家によって書かれた多くの文書にも証拠があります。 イエスの犠牲の真理を信じることは、救いの信仰の賜物です。
（1 ヨハネ 5 章 1 節)：「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」
新生したクリスチャンは 「神から生まれ」ました。 ひとたび罪人が生まれ変われば、彼らは父なる神を愛していることにも気づきます。 新約聖書はまた、古い信仰契約のアブラハム、イサク、ヤコブの唯一神としての三位一体を確固たるものにしています。
(申命記 6 章 4-5 節)：「 4 聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。5 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」
この聖句（申命記 6 章 4-5 節）はヘブライ語で 「The Shemai」 ： シェマイ・イスラエルと呼ばれます！Adonai Elohim Adonai echad ″と呼ばれています。 使徒ヨハネは、新生することの一つの効果は、父なる神を意識的*に愛することであると宣言している。 父*なる神を愛することは、父なる神から生まれた子どもであるすべての*新生したリスチャン*を愛することでもあります。
イエスはご自身の教えの中で三位一体を紹介し、またご自身の周りにある神の啓示を紹介されました。 マタイ 28 章 19 節のイエスによる大宣教命令の中で言われます。
(マタイ 28 章 19 節)：「19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け」
*それゆえ、**三位一体の神の御名によって「洗礼を授ける」ことを指示されたのです。 神は「Shemai 」にあるようにひとつですが、ひとつとは 「echad 」**であり、複雑な一体性を意味します。これは、アダムとエバがエデンの園で結婚によって「ひとつ」になったことを表すヘブライ語と同じです。
(創世記 2 章 24 節)：「 24 それゆえ、男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。」

神は、キリストにあって成熟することによって、私の個人的な生活の中で、神の御言葉を神の時に経験させてくださいました。 私の経験では、新生したクリスチャンは、時間をかけて聖霊を人として愛することを学ばなければなりません。 聖霊は私たちの内に信仰を生み出し、私たちの体を墓からよみがえらせてくださいます！　しかし、私たちの心は 「聖霊 」を理解できません。神はそのことを知っておられ、御子を肉体的な神の小羊として遣わされ、その犠牲によって私たちの罪を取り除かれただけでなく、肉において顕現された神を私たちの心に理解させるためにも遣わされたのです。 しかし、聖霊は、イエスの犠牲と、すべての信者とともにおられる日々の臨在を、私たちに思い起こさせ続けてくださるのです」。　イギリスの有名な聖書説教者でありディボーション作家であったチャールズ・ハドン・スポルジョンは、19 世紀にこのように雄弁に語っています：

「父と子と聖霊とを知るべきものとして知っている者は、その愛において、一方を他方より優先させることはない。ベツレヘムでも、ゲッセマネでも、カルバリーでも、救いの業に等しく従事しているのを見るのである。」(朝と夕方　2 月 5 日　朝、C.H.スポルジョン)

教訓　その 1

新生したクリスチャンは、生まれ変わった瞬間に聖霊を受けます。 聖霊は、生まれ変わる前にはなかった愛を、私たちの硬くなった心に生み出してくださいます。 この新しい創造には、父なる神と神の子どもたちすべてを愛することが含まれます。 クリスチャンが成熟するにつれて、彼らは通常、生活の中で聖霊をより意識するようになります。 イエスとの純粋で個人的な関係とは、三位一体である神の交わりと愛を意味します。

(1 ヨハネ 5.2-3 節)：「2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。」

今、私たちは、神の戒めが、神がモーセに与えたような**律法を守ることではない**ことを知っています。 **(ローマ 6 章 14 節)**で学んだように：「14 というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の**下**にはなく、**恵みの下**にあるからです。」

(ヨハネ 13 章 34-35 節)でイエスが言われたことに意識的に集中するよう、イエスは私たちに*新しい戒め*を与えました。：「34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

パウロがローマの信徒へ手紙を書く約 30 年前、イエスはユダヤ人の律法学者に「というのは、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあります」と言われました。

イエスがその律法学者と対決したことは、次のように記録されています。

(マタイ 22 章 34-40 節)：「 34 しかし、パリサイ人たちは、イエスがサドカイ人たちを黙らせたと聞いて、いっしょに集まった。35 そして、彼らのうちのひとりの律法の専門家が、イエスをためそうとして、尋ねた。36「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」37 そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』38 これがたいせつな第一の戒めです。39『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

使徒ヨハネは、イエスが言われたことを、クリスチャンの生き方、愛し方についての教えの中心に据えています。

さて、使徒ヨハネはこのクリスチャンへの手紙の前の方で、旧約聖書と新約聖書の両方のイエスの戒めによって愛しなさいという教えを繰り返していました。

(1 ヨハネ 2 章 7-11 節)：「7 愛する者たち。私はあなたがたに新しい命令を書いているのではありません。むしろ、これはあなたがたが初めから持っていた古い命令です。その古い命令とは、あなたがたがすでに聞いている、みことばのことです。8 しかし、私は新しい命令としてあなたがたに書き送ります。これはキリストにおいて真理であり、あなたがたにとっても真理です。なぜなら、やみが消え去り、まことの光がすでに輝いているからです。9 光の中にいると言いながら、兄弟を憎んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。10 兄弟を愛する者は、光の中にとどまり、つまずくことがありません。11 兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩んでいるのであって、自分がどこへ行くのか知らないのです。やみが彼の目を見えなくしたからです。」

（1 ヨハネ 2 章 7-11 節）から、その意味を指摘するために、いくつかの細部を強調しましょう。古い愛の戒め（1 ヨハネ 2 章 7 節） - （マタイ 22 章 34-40 節）でイエスがファリサイ派の人々に言われたように、次のように引用しています。：「あなたは、心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛さなさい。」（旧約聖書**(申命記 6 書 5 節)**。 そして**(レビ記 19 章 18 節)**：「復讐してはならない。あなたの国の人々を恨んではならない。あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。わたしは主である。」

そして、（マタイ 22.34-40）でイエスは旧約聖書に重点を置かれました。 イエスは私たちすべてを罪の呪い、律法の下に生きる呪いから取り除くために来られたのです。

そして**(マタイ 22 章 40 節)**：「40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」」

それゆえ、ご自分と一緒に律法を十字架に釘付けにすることになったイエスは、十字架上の死によって私たちを律法の文字から解放した後もなお真実であろう、律法の霊についてここで語られたのです。

愛に対する、新しい戒め（1 ヨハネ２章 8 節）- 十字架にかけられる前の最後の日、イエスは「最後の晩餐」の中で、この「新しい戒め」を明らかにされました。

(ヨハネ 13 章 34-35 節)：「34 あなたがたに**新しい戒めを**与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。 35 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」」

ヨハネはそこにいて、神の言葉を教えるために.....イエスの「愛に対する新しい戒め」を教えるために、一致あるいは同意して書きました。

光の中に留まる（1 ヨハネ 2 章 9 節）：「 イエスは言いました(ヨハネ 8 章 12 節)：「12 イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」」

それで、使徒ヨハネはこの真理を、キリストにある兄弟を愛することに次のように適用しています。 **(1 ヨハネ 2 章 9 節)：**「9 光の中にいると言いながら、兄弟を憎んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。」

兄弟を愛する（1 ヨハネ 2 章 10 節）：「 10 兄弟を愛する者は、**光の中にとどまり**、つまずくことがありません。」

キリストにある兄弟姉妹を愛するとき、私たちはイエスと親しく歩みます。 彼は光です！ 私たちは霊的に、自分たちがどこへ行こうとしているのか見ることができます.....つまずくことはありません。

兄弟を憎む(11 節)：「11 兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩んでいるのであって、自分がどこへ行くのか知らないのです。やみが彼の目を見えなくしたからです。」

私たちの人生には、神が私たちを守ってくださることに信頼しなければなりません。私たちの理解を超えた多くの障害が隠れているからです。　宣教師として、私は多くの慣れない家に住んできました。 夜中に何かにつまずいた「痛み」は、すべて忘れたいものです。 聖書は、霊的な暗闇の中を歩むことは、つま先をぶつけたりぶつけられたりするよりもずっとひどく、多くの霊的な痛みを引き起こすことを示しています！　兄弟を憎むことは、光であるイエスの近くを歩むための親しい交わりを妨げます。憎しみと恨みの闇の中を歩むクリスチャンは、神を憎んでいた時に神がどのように赦してくださったかを忘れてしまうのです。

(Romans 12.1-12)からの先週の説教で、私は次のように言いました：「しかし、地方教会におけるキリストのからだのメンバーという文脈は、私たち全員が使徒パウロの指示（エペソ 4 章 15 節）に従うことができるように、感情を傷つける危険を冒さなければならないことを意味しています。」

(エペソ 4 章 15 節) ：「15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。」

(1 ヨハネ 5 章 1 節)：「 1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」

***愛をもって真理を語ること*について、とても重要で難しい言葉があります:** 仲間のクリスチャンがあなたや他の誰かを傷つけた場合、まずそのことについてイエスに祈ることが常に重要です。多くの場合、主の御霊によって、あなたが何も言わなくても、相手が行動を改めるのを助けてくださいます。

(ローマ 12 章 9 節)にその指示があります：「9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。」

時には、特に、罪深く傷つけるような行動が続き、それが不完全さや悪い習慣以上のものであり、意志的なものであると思われる場合には、向き合うことが必要です。兄弟と主や他のクリスチャンとの関係を気にかけないことは、兄弟を愛することではありません。

私たちの態度で最も重要なのは、*赦しです。*

(ルカ 17 章 3－4 節)：「3 気をつけていなさい。もし兄弟が罪を犯したなら、彼を戒めなさい。そして悔い改めれば、赦しなさい。4 かりに、あなたに対して一日に七度罪を犯しても、『悔い改めます。』と言って七度あなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」

しかし、より困難で緊張を強いられるのは、クリスチャンが自分の罪に気づいていない場合です。

(マタイ 18 章 15-20 節/NABRE)：「 15 また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。16 もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。17 それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人か取税人のように扱いなさい。18 まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれているのです。19 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。20 ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」」

私は、以下の NABRE 編集によるこれらの注釈による釈義と聖書の意味を引き出すことに同意しています。　私は、愛する聖徒たちに、羊飼い長から与えられた権威を行使するつもりであることを知ってもらいたいので、これらを私のメッセージに加えます。 私は祈りながら、自分の権威を聖書の中に保つことを目指しています。 もし私が 「不親切 」に見えたとしても、羊飼い長の前

に立ち、羊飼い長の教会における罪を 「微笑んだり無視したり 」したことの責任を問われるのは、あなたたちではなく私であることを、すべての人に知ってほしいのです。

（マタイによる福音書 18 章 15-20 節）と教会の規律に関する NABRE（New American Bible Revised）編集の注釈にはこうである： 「聖書におけるイエスの説話は、罪を犯しながら共同体の中にとどまっている者に、どのように対処すべきかということに転じている。まず個人的な矯正が行われ（マタイ 18 章 15 節）、これがうまくいかない場合は、二人か三人の証人の前でさらに矯正する必要がある（マタイ 18 章 16 節）。これがうまくいかない場合は、その問題は集まった共同体（教会）の前に持ち出され、もし罪人が教会の矯正に応じない場合は、その人は追放される（マタイ 18 章 17 節）。教会の裁きは天において、すなわち神によって批准される（マタイ 18 章 18 節）。」 {NASBRE 引用終わり}。

さて、祈りの重要性を強調するために、NABRE Editors’NOTES で取り上げた箇所の次の箇所（**マタイ 18 章 19-20 節**）の近接性あるいは文脈を付け加えておきたいです。

注解：**（マタイ 18 章 19 - 20 節）：「** 19 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。20 ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」

この厳しい指示の NABRE による分析は、先週の説教で私が述べたことと一致します： 「私たちはコンピューターを使ったゲームのように教会で遊んでいるのではありません。私は月 1 回、土曜日の午後にここで祈りの集いを開くつもりです。祈る教会は遊ぶ教会にはならないと信じているからです！ 私たち OIC は、ここ OIC で、教会で、そして個人的な生活の中で、重要な霊的課題に対処するために、共に祈り、祈りの必要を分かち合うために共にいるつもりであることをイエスに示す必要があります。」

OIC のクリスチャン仲間がこのような罪深い行動をしていると感じたら、私に会いに来てください。 このような問題に祈り、対処するのが「私の仕事」です。 OIC には教会評議会があり、彼らは天からの権威を行使する信頼できる選出されたリーダーであり、私も同様にイエスからの権威を行使します。

さて、釈義に戻りますが、上記は教会の羊飼い長であるイエスを喜ばせるための実践的、あるいは応用的な釈義であることを忘れてはいけません。

（1 ヨハネ 5 章 3 節 b）：「 3…その命令は重荷とはなりません。」

キリストにあって成熟するにつれて、クリスチャン生活が困難なものではなく、不可能なものであることに気づいても、萎縮することはありません。すると、イエスの命令は実際に 「重荷にならない 」ようになるといわれます。 説明しましょう。 イエスは言われた。

(ヨハネ 15 章 5 節) ：「5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」
不可能なクリスチャン・ライフは、私たちが行うすべてのことをイエスとともに生きることを必要とします。 なぜクリスチャンはイエスなしでは何もしたくないのでしょうか？ しかし、私やあなたと同じように罪深い肉を持っていた使徒パウロは、宣教師／牧師／伝道者としての挑戦的な人生について、次のような重要な真理を学んびました。
(1 コリント 15 章 10 節)：「 10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。」
キリストのうちに成熟することは、イエスが(ヨハネ 15 章 5 節)で言われたように、パウロのうちに、そして私たちのうちにも、イエスが多くの実を結ぶように、神の無償の好意や恵みによって、聖霊の力をますます許すことにつながります。

教訓　その 2
兄弟を愛するクリスチャンは、光の中にとどまり、その人のうちにつまずきの原因はありません。(1 ヨハネ 2 章 10 節) イエスが命じた「互いに愛し合いなさい」という命令は、単純なように見え、しばしば簡単なことのように感じられます。 しかし、人間は単純でも簡単でもありません。 新生したクリスチャンになることは、神の子になるという完成のプロセスを始めることです。 教会共同体の中で罪を犯している者たちから神の羊を守ることは、羊飼いの長である羊飼いの下僕としての私の責任です。 このような聖徒たちのほとんどは誠実なクリスチャンですが、自分を型にはめようとするこの世の圧力のために、自分のことだけに目を向けています。 聖書は、これを解決するために何も行動を起こさないことは、イエスにとって受け入れがたいことであることを明らかにしています。 これは、一般的なキリスト教と同様、イエスの霊が私たちを可能にし、力づけることなしに対処することは「不可能」なのです。

さて、今日の主要なタイトルの聖句 (1 ヨハネ 5 章 4 節 b) ：「4…私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。」

あるいは、もっと原義に忠実に言えば、「*これこそ、世界を征服する(nikao/Greek)勝利の力、すなわち私たちの信仰です*」。 悔い改め、信仰、新しい心.....新しく生まれ変わった信者は、自分の中に神によって素晴らしいことがなされたことを知っています。 しかし、無形の、しかし力強い信仰を感じ取ることを学ぶのが、聖霊によって、教授やイエス先生と共に学ぶ学校なのです。というのは、新しい信者は(ヘブル 11 章 1 節)を不思議に思うかもしれません。 ：「1 信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」

しかし、聖霊によって私たちの大先生であるイエス先生に耳を傾け続けるとき、目に見えないものに対する確信は、イエスと一緒になるために水の上を歩いたペテロの信仰のようになる。これは（マタイ 14 章 28-30 節）に記されています：「28 すると、ペテロが答えて言った。「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」29 イエスは「来なさい。」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。30 ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください。」と言った。」

そして、ペテロのように、イエスから視線や焦点をそらすと、恐れや疑いが世界を征服する信仰を奪っていくように思えて、沈んでしまうことがよくあります。 しかし、私たちには、ペテロのように、31 節で、すぐにイエスは手を差し伸べて彼をつかまえ、こう言われました。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」 しかし、イエスは、愛する弟子を叱られた後、彼を沈没から救い、船の乗組員全員が求めていた奇跡を行われました。

（マタイ 14 章 32 節）：「32 そして、ふたりが舟に乗り移ると、風がやんだ。」

以前説教したように、「疑い」は霊的な癌です。しかし、イエスは、私たちの信仰が世界に打ち勝たないような人生を受け入れるよりも、むしろ私たちが信仰を試すことを望んでおられます。キリスト教映画『神は死なず』で見た C.S.ルイスの言葉が、溺れかけたペテロとイエスについての私の理解にぴったりです。**本当のリスクだけが、信念の現実性を試します！(C.S.ルイス)**

ブルース牧師の体験的キリスト教：

今日のメッセージの鍵となる聖書の箇所： 信仰は世に打ち勝つ勝利である。 私たちの考え方にとって、「世」には肉や悪魔という言葉も含まれるのが聖書的だと思います。 ある祈りのグループの親愛なるクリスチャンたちが、私が OIC に採用された直後にこう言ったとき、批判的な態度をとったことをはっきりと覚えています： 「悪魔から私を守るために祈らないでください。 聖霊が私の罪深い肉体に打ち勝つように祈りなさい！″と言ったとき、ある親愛なるクリスチャンたちが批判的だったことをはっきりと覚えています。 彼らは憤慨しました。 その理由は理解できます。 日本の人々にキリストを伝えるために献身している親愛なるクリスチャンの中で、ただ一人理解してくれた人がいました。 彼女は、神が私に**サタンに打ち勝つ自信を賜物**として与えてくださったのだと悟りました。 彼女は、私が 「サタンの魔術師 」だったことを覚えていたのかもしれません。 もし神が私を苦しめるような経験をさせなければ、私は生まれ変わって救われることはなかったでしょう。 サタンの攻撃は、私が救われるにつれて、私の人生においてサタンが打ち負かされていることに気づき始めたからです。 キリストのもとに導かれた私の激しい期間は、ほぼ 1 年間、絶え間ない霊的戦いの日々でした。 1973 年 5 月 17 日、不思議なことに生まれ変わったその日まで、私には霊的な「息抜き」の余地がありませんでした。

2023年1月、私はCOVID（オミクロン）病の間、再び 「地獄のような 」苦しみを味わいました。妻は私が正気を失わないように助けてくれ、また、あなたが私を雇うことに投票してくれた日曜日に、YouTubeを通してOICに錯乱状態で説教するよう、愛をもって私を押し付けてくれました。 そして正気に戻ったとき、悪魔ではなく私の肉に対する祈りの願いに対する神のアーメンが、悪魔を狂わせたのだと気づきました！　1970年代のアメリカのジーザス・ムーブメントで私が知っていたすべてのクリスチャンが言っていたように、「悪魔は怒っている。」のです。
ブルース牧師、あなたが救われた経験以外に、この神学を裏付ける聖書の箇所はありますか？はい！ イエスが弟子たちを率いてゲッセマネで祈られる直前、エルサレムの指導者たち（主にユダヤ教の祭司たち）が武装した兵士たちを引き連れて、イエスを逮捕しようとしていることを知っていました。 彼は11人の使徒たちに告げました。
(ヨハネ 14章29-31節)：「29そして今わたしは、そのことの起こる前にあなたがたに話しました。それが起こったときに、あなたがたが信じるためです。30わたしは、もう、あなたがたに多くは話すまい。**この世を支配する者が来る**からです。彼はわたしに対して何もすることはできません。31しかしそのことは、わたしが父を愛しており、父の命じられたとおりに行なっていることを世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。」
この世の支配者であるサタンは、イエスの中に何の関係も持っていませんでした。イエスは肉を持っておられましたが、私たち皆がまだ持っている肉の罪の性質は持っておられなかったのです。 私たちの罪深い性質は薪のようなものです。サタンは火の矢を放ち、私たちの古い性質は、邪悪な考え、神の愛に対する疑い、私たちのためのイエスの勝利に対する忘却の炎を燃やします。 そうなると、私たちは世と肉と悪魔に打ち勝つことをやめてしまいます！ 神が私たちに与えてくださったのだから、私たちには信仰があります！ しかし、私たちの信仰は死んでいるようです。信仰がまったくありません！ イエスが悪魔について言われたように、悪魔は私の中に何も関係を持っていないと言うことはできない。　もし私の肉体が聖霊によって抑えつけられているなら、私の救い主イエスが十字架にかかられたように、サタンを打ち負かすことができると、私は信じていたし、今も信じています！

自分自身や友人との祈りがなければ、これは悪魔の力が私や私の弱さを狙っているゲームに過ぎません。 私の好きな詩のひとつは、ダビデ王の体験的な 「キリスト教」（キリスト以前だが、彼にはキリストの霊があった）です。
(詩篇 116篇1-2節)：「1私は主を愛する。主は私の声、私の願いを聞いてくださるから。2主は、私に耳を傾けられるので、私は生きるかぎり主を呼び求めよう。」
イエスがダビデ王や沈みゆくペテロにしてくださったように、私たちは、イエスが憐れみを求める私たちの懇願に答えてくださるという確信を深めることができます。 もし私たちが、もっと「不可能な奇跡」、つまり私たち自身が水の上を歩くような信仰を持つようにというイエスの呼

びかけに祈りながら従いたいと願うなら、私たち自身が生きていることに気づくでしょう(1 ヨハネ5章3節)

そしてこれこそが、世界に打ち勝つ(nikao/Greek)勝利の力、すなわち私たちの信仰です。 信仰が挫折しそうになったとき、助けを求める祈り。 心からの祈りは、神への長い手紙よりも効果的であることが多いです。 もちろん、心からの神への長い手紙もあります。 しかし、使徒ペテロが（マタイ14章30節）***「主よ、私をお救いください！」と***いう***3つの言葉***で効果的に祈ったことに注目してください。

神の御言葉は、節ごとに、また私たち以前の聖徒たちの体験的なクリスチャンのあり方において、クリスチャンが**この世、肉、悪魔に打ち勝つ**神の力を救いの信仰に持っていることを示しています。 **しかし、救いの信仰が成長し、より多くの**実を結び、イエスの御国の働きのために勝利するためには、私たちはさらに**多くを望み、求めなければなりません！ 私たちが奉仕と祈りにおいて忍耐強くなるにつれて、私たちは皆、世界を征服する信仰へと導く祈りを経験するようになるでしょう。**

.....聖餐式

REFERENCES

NABRE - New American Bible Revised Edition, Scripture texts, prefaces, introductions, footnotes and cross references used in this work are taken from the New American Bible, revised edition © 2010, 1991, 1986, 1970 Confraternity of Christian Doctrine, Inc., Washington, DC

NASB1995 - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995, 2020 by The Lockman Foundation. All rights reserved.